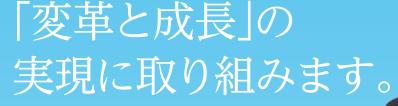


トップメッセージ

未来への飛躍をめざして

牛島 光夫



会社設立45周年を迎えた三菱製紙販売。 その先頭に立つ牛島光夫社長と、 次代を担う若手2人による対談を実施しました。 当社の今と未来が見えてくる対談を、どうぞお楽しみください。



一 まずはじめに、三菱製紙販売株式会社のご紹介と紙業界を取り巻く現在の状況について伺いたいと思います。

牛島 当社は、1921年に三菱製紙所の西日本地区販売代理店として創業しました。その後、合併統合を経て、いまから45年前の1972年に現在の社名となったのです。以来、三菱製紙グループの強いブランド力を基盤として、紙や紙にまつわる商品を社会に提供し、お客さまをはじめとするステークホルダーの皆さまとともに歴史を紡いでまいりました。

現在、紙業界全体を取り巻く環境は厳しい状況にあります。少子化、電子メディアの隆盛により、紙需要は減少傾向にあり、対前年比で減少が続いております。しかし、この大きなうねりに対して、じっと待っていてはいけません。むしろ、いまこそ変わらなければいけない時を迎えたのだと考えています。



「変革と成長」は、今年、私が掲げたキャッチフレーズです。当社の従業員はおよそ300名。いざ動こうと思えば、ひとつとなって動くことができます。小回りを利かせながら正しい舵取りをしていくことが、事業の成長を促し、変革を実現すると確信しています。

その舵取りのひとつが、FSCへ

の取り組みです。世界的な知名度 と浸透が見られるFSCを国内で 最も早く取り入れた当社の優位 性を生かし、さらなる拡大に努め たいと思います。

一 渋谷さんは今年、FSCの取り組みとして福島県西郷村にあるFSCの森「白河甲子の森」でアカマツの伐採を体験されました。



渋谷 当社で毎年製作しているオリジナルのノベルティーカレンダー「ハートのカレンダー」には、生物多様性の保全への思いを込めるためFSC認証紙を使い、台座にもFSC認証材を使っています。昨年からこの「ハートのカレンダープロジェクト」に携わるなかで、いつしかFSCの森がどのように管理され、木が伐り出され、製品となっているのか、自分の目でしっかりと見たいと思うようになりました。そこで実際に「白河甲子の森」でアカマツの伐採をしようということになったのです。実際に森に入ると、いろいろな種類の木がありますが、間伐されているため日の光が地面まで届き、明るい雰囲気を肌で感じることができました。

牛島 FSCに取り組むことで、環境保全というものを身近に考えてもらいたいという思いがあります。自分の目で見ることは、まさに身近に感じることです。実際に間伐に行き、木を育てることの大切さを知り、その1本1本が製品となり、それをユーザーにお届けするということを実感することはとても大切ですよね。

渋谷 本当にそう思います。これまで三菱製紙販売で働きながら FSCを学ぶなかで、管理して育てることの大切さを学んできました。



今回、森へ足を運び、伐り出された木材が加工され、手元に届くまでのドキドキした気持ちを知ったことで、この「ハートのカレンダー」を環境のツールとして、お客さまへどのように伝えていこうかという課題や目標も見つけることができました。

牛島 正しく伝えることはとても大切。子供たちや若い人の多くは、木を伐ることに対して良くないイメージを持っています。そうではなく、生態系を守り、生物多様性に悪影響を与えないように製品を作っていることを伝えていかなければいけません。そのとき、実際に自分で体験した上で表現の力強さが発揮されるはずです。そのように若い世代に対して理解を深めていく活動というのは、森林の育成と一緒で地道に育てていくことなのだと思います。

成長戦略とともにある 業務構造改革の目指す先。

一 「変革と成長」というキャッチフレーズにおいて、牛島社長が 掲げる成長戦略について教えていただけますか。

牛島 成長戦略のひとつの柱としているのが新商材です。AED (自動体外式除細動器)や、LED製品、防災グッズ、介護補助製品といったように世の中の環境や時代のニーズを捉え、安心・安全および健康をサポートするSafety&Health事業としてこれらの新商材を扱っていきます。紙の需要がシュリンクしていくなかで、新商材がそれを補い、また成長していくものと考えています。

もうひとつの柱となるのが、海外展開です。当社はこれまで国内

販売を中心に事業を展開してきました。今後は、海外メーカーとの取引を通じて、まだ日本にない製品を探し、国内のお客さまのニーズに合わせて提案していきます。同時に海外のお客さまとも様々な接点を持つことができるよう、準備を進めていきます。

これからは、紙と新商材と海外展開をミックスしながら成長戦 略を描いてまいりたいと思います。

一 成長戦略の実現のためには、「変革」もまた重要になってくると思われます。

牛島 変革ということでは、2017年4月に組織変更を行いました。 部と部の間にある垣根をなくし、それぞれが持っている情報を有効に活用することで、販売力の強化を図ることのできる体制を敷きました。

当社の従業員はおよそ300名と申しましたが、コミュニケーション力が高まれば社内は今よりもっと円滑に動き出します。

では、組織変更をした後、コミュニケーション力を含め、個々の力を高めるためには何をすればいいのか。それが働き方改革です。

従業員が自己研鑽に励むことで能力を高めることです。自分のために何かを学び、積み重ねていくことで広い視野が得られます。ところが、従業員がオフィスに滞在する時間が長ければ、自己研鑽はできません。また、三菱製紙グループが取り組むGKK (業務構造改革)プロジェクトに当社も積極的に関わっていきます。



FSC® C011851





当社は今年、「中央区ワーク・ライフ・バランス推進企業」に認定されました。全社的な取り組みにより、育児・介護との両立支援、働きやすい職場環境づくり、地域活動が認められました。



石毛 私はGKKの当社アンダープロジェクトメンバーに選任されたのですが、選ばれたときには驚きました。一方で選ばれたからには自分の成長にも繋がることだという思いもあり、責任を持ってやり遂げたいと思っています。

いま私が取り組んでいるの

は、チーム内のジョブローテーションです。ある業務を誰か1人が長く担当していると、そのやり方が果たして効率的なのか見えない部分があります。そのため、ジョブローテーションをすることで、誰もがその業務を担当できるようにし、同時に業務の効率化を図ろうとしています。

牛島 GKKの目的のひとつは無駄を省き業務を効率化することです。色々な角度からみんながいまの組織を見ることで、無駄を簡略化し効率を上げ、機能性を高めることができる。そんな実感はあるかな?

石毛 はい。GKKに参加したことで、業務全体の流れを把握しようという意識が生まれました。そういう視点を得たことで、いままでは気づかなかった、「ここは改善できるかもしれない」ということを日頃から考えるようになったことに、自分自身の変化を感じています。そうした積み重ねが、全社的な業務構造改革に繋がっていけばいいなと思っています。

牛島 ぜひ、君たちのような若い視点で、切り口を見つけていってください。大いに期待しています。

コミュニケーション × 働き方改革 = **新しい未来**

次の50年、100年を見据えて、 ステークホルダーの皆さまとともに、 歩んでまいりたいと思います。

クリーンな企業であることが 事業の継続を可能にする。

―― 会社設立から45周年を迎えました。これから先、どのような企業をめざしていかれるのでしょうか。

牛島 事業は何より継続です。そして、継続のためには世の中の状況、環境にマッチする機動性のある企業でなければいけません。それからクリーンな企業であること。つまり、コンプライアンスを重視することも事業継続性においては重要です。

実は、働き方改革の取り組みの一環でもありますが、当社は東京都中央区の「ワーク・ライフ・バランス推進企業」として認定されました。これは、従業員が働きやすい環境を作ることをめざして取り組んできたひとつの成果といえ、またクリーンな企業であることの証でもあると思います。当社がこうして長い歴史を紡ぐことができたのも、OBの方々がとてもいい社風を作り上げてくださったことと、やはり従業員がいたからこそだと思っています。そして、次の50年、100年を見据えて、ステークホルダーの皆さまとともに、新しい未来を作るために歩んでまいりたいと思います。



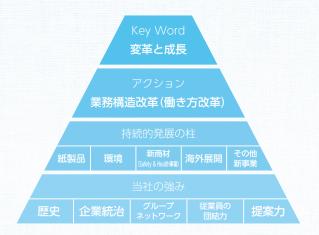


三菱製紙販売のCSRビジョン

子どもたちの未来を創るために 三菱製紙販売は、事業を通じて 持続可能な社会の実現に向けて挑戦を続けます。

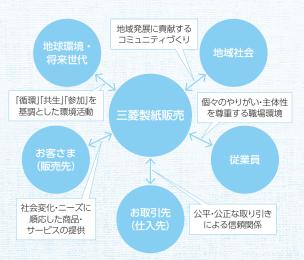
成長戦略

当社は紙製品の専門商社として1912年に創業して以来、100年以上にも及ぶ歴史の中で各種用紙をはじめ多種多様な商品を社会に提供し続けてきました。今年は「変革と成長」をスローガンに、過去にとらわれない業務構造改革によって企業価値を高め、事業を通じて社会と当社の持続的発展を目指しています。



ステークホルダーとの関わり

三菱製紙販売の事業は、多種多様なステークホルダーとの関わりの中で成立しています。ステークホルダーの皆さまの要望や期待を通じて社会と企業活動における課題を認識し、当社が提供できる価値を生み出すべく、取り組みを重ねています。



CSRの考え方

三菱製紙販売のCSRは、環境問題への対応、社会との関係、企業統治のそれぞれの側面でバランスに配慮しながら、信頼を得るために果たすべき自主的な取り組みです。ステークホルダーの皆さまの要望や期待を通じて社会と企業活動における課題を認識し、その解決に努めます。



CSR推進体制

CSR委員会



企業統治推進体制



コンプライアンスホットラインについて

- 三菱製紙グループホットラインを社内の誰でも利用することができます。
- 社内で法令違反、不正行為、企業倫理上問題となりそうな事項が認められるとき会社の事業活動、職場での各種業務活動に対する改善のための意見・提言を会社に伝えたいとき

FSC® C011851

本 本 な ら 目指す 未来の ゴール

~ FSC®がSDGsをバックアップ~

三菱製紙販売は FSC CoC認証取得企業として 国際目標SDGsにも貢献します

2015年に国連サミットで採択された、持続可能な開発目標であるSDGs。 世界各地に存在する極度の貧困や不平等・不正義を無くし より良い未来を実現するために、全世界で取り組もうとする挑戦です。

ここに並ぶカラフルなアイコンは、それぞれSDGsの目標を表しています。 17ある目標のうち、11個についてFSCがその目標達成に寄与するとされ、 大きく表示されたアイコンほど、大きな貢献度が期待されています。 中でも「目標15」はFSCの目指す方向性とほぼ合致する重要な目標です。

当社は2002年にFSC CoC認証を取得し、 環境事業の柱のひとつとしてFSC認証品の普及・拡販に取り組んでまいりました。 当社のFSCに関する取り組みは、

SDGsに貢献することができると考えます。

SUSTAINABLE GOALS SDGsとは何か?

2030年に向けて世界が合意した 「持続可能な開発目標 | です

2015年9月、国連サミットにて2030年までの「持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals)」が全会一致 (加盟国195ヶ国) で採択されました。SDGsでは、国際社会共通の目標として社会・経済・環境面における17個のゴールが設定されています。企業は、課題に対する解決策や技術を主導して開発・提供し、持続可能な開発の推進に貢献していくことが求められています。







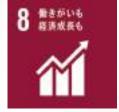












FSCの 貢献

適切な雇用、適正な賃金を支援



FSCの 貢献

適切な森林管理が 水源確保に貢献





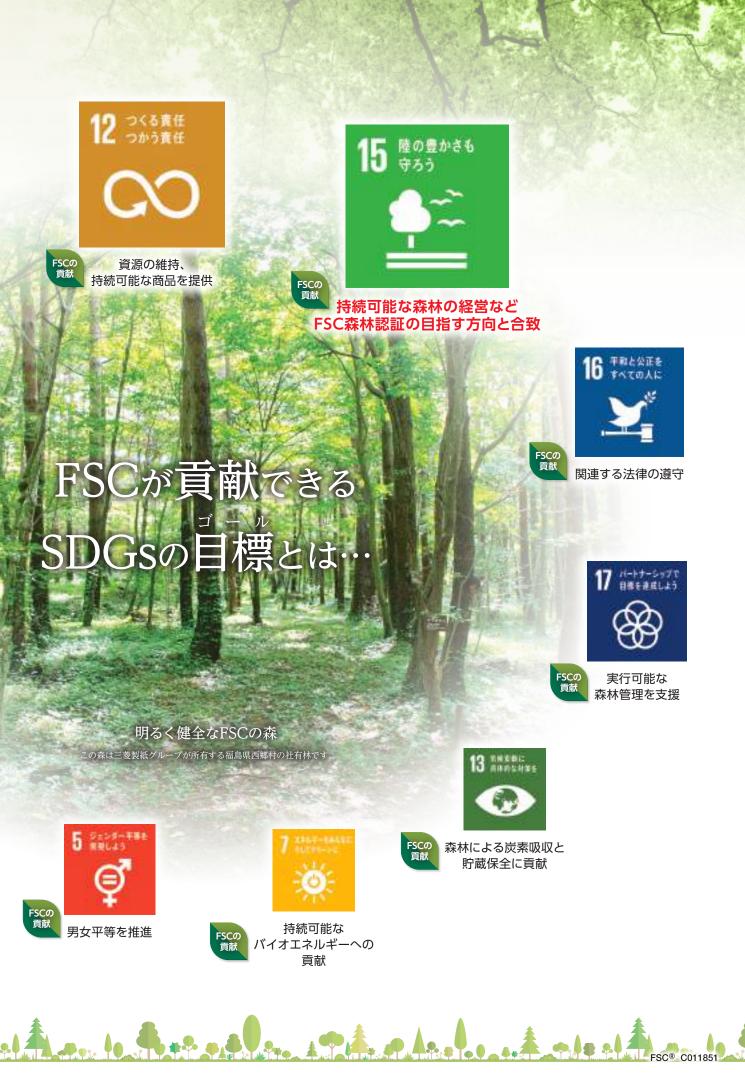
森林の 生態系サービスに 貢献





小規模林業 コミュニティフォレストの 支援





FSC認証材を使った ハートのカレンダーができるまで

2014年にスタートしたカレンダープロジェクト 今年は社員の手で伐りだした木を使っています

福島県西郷村にある三菱製紙社有林(FSC FM認証取得)にて 社員たちの手でアカマツを伐採し、カレンダーの台座を製作。FSCの仕組みとともにその様子をご紹介します。

1 FSCの森で 木を伐採します



伐採前の確認作業から正確に

\ いってきまーす!



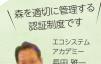
伐採は、FSCのガイドラインに沿って行われます。今回は三菱製 紙グループがFSCガイドラインに基づき独自に作成したチェック リストを活用し、「作業を予定している範囲に希少野生動植物が 生息していないか」など、多くの項目の確認を行ってから作業を 開始しました。







FM認証・CoC認証とは?







FM認証 (Forest Management) とは、森林を 対象にした認証で、FSCの10の原則と56の基 準に基づいて環境に配慮されたと認められた 森に与えられるものです。さらに、そこで生産さ れたFSC認証材と、それ以外の材が混入しない ように加工・流通されていることを認証するの がCoC認証(Chain of Custody)です。



7 木材を管理・運搬します



緑のスプレーはFSC認証材の証



伐りだした丸太はサイズを測り、さらにFSC認証材である証と して切り口に緑の塗料で印を付け、他の木材と混ざらないように します。さらに、伐りだした記録はきちんと書面で管理し、年1回 認証機関のチェックを受けます。





3 CoC認証による適切な管理の下、木材を加工します



アカマツの一枚板が時間をかけて カレンダーの台座に変身

三菱製紙の外部委託先であるみなみ製材所で、CoC認証の手順に 則って製材を行います。敷地には製材を待つ多くの木材が置かれてい ますが、今回伐りだしたFSC認証材は、他の丸太と混ざってしまわない よう1か所に集められて管理されます。必要なサイズに切断し、さらに 台座として利用するために細かい加工を行うフロンティアジャパン㈱ 福井工場へ出荷します。



三菱製紙販売が取り扱う間伐材製品ラインナップ

当社は国産間伐材によるノベルティグッズの製作を行うフロン ティアジャパン(株)と協働関係を築いています。FSCにも対応し ており、森林保全に貢献したいという多くのお客様のニーズに 合致していることから、非常にご好評いただいています。







4 イラストを選定し、 FSC認証紙に印刷します



🥊 カレンダーがつなぐ様々な絆

カレンダーそのものの製作は名古屋に拠点を置く印刷会社、㈱マルワ に協力をお願いしています。カレンダーに掲載するハートのイラストを 月ごとに選定。何度もやり取りをしながらデザインや内容を決定してい きます。校了後は、三菱製紙のFSC認証紙に印刷。フロンティアジャパン ㈱から届いた台座と組み合わせれば、カレンダーの完成も目前です。



幸せへの願いを込めて描かれたハートのカレンダー

東日本大震災をきっかけに、すべての人、すべての生きものがこの地球上で 調和して幸せに生きていけることを願って、フェイスブックやツイッターを 通してハートの絵を発信し続けているイラストレーターの茶畑和也さん。そ の思いは当社の取り組む生物多様性の保全というテーマと重なっており、 2014年からその絵をお借りしたカレンダーの製作をスタートさせました。

5 ハートのカレンダーの完成です



毎日目にするアイテムだからこそ込めた想い

たくさんの方々のご協力の下、無事にカレンダーを完成させることが できました。カレンダーを手にしてくださった皆さんに、ぜひ森や環境保 全について考え、ともに行動する輪に加わってほしいと願っています。

厳しい管理の下で作られた商品にだけ認められるFSCマーク

これらの過程の中で、認証を取得していない事 業者に一度でも所有権が移るとそれ以降、FSC 認証品とは認められません。厳しい管理の下に 製作された商品にだけ、FSCマークをつけるこ とができるのです。(右のマークは一例です)







FSC をもっと伝える もっと広める

世の中にFSCの輪を広げるために 当社が取り組んでいる活動をご紹介します

当社が2002年に日本の洋紙代理店として初めてFSC CoC認証を取得してから今年で15年が経ちました。
FSCは世界的に認められている森林認証制度のひとつでありながら、日本では一般消費者の皆さまにあまり知られていないのが現状です。
その課題解決に向け、当社では様々な取り組みを実施しています。

FSC応援プロジェクト

ホームページやSNSを活用 楽しく分かりやすくFSC情報を配信中

FSC応援プロジェクトは、FSC認証品の普及・拡販を目的に、環境事業のひとつとして2013年に発足しました。日本でもFSCマークの付いた商品は着実に増えつつあるものの、そのマークの持つ意味は一般消費者の皆さまにほとんど知られていません。商品を実際に使用する皆さまにFSCを知ってもらい、選んでもらわなくては本当の意味での森林保全には繋がりません。FSC応援プロジェクトでは、ブログサイトやフェイスブック等のSNSを通して、FSCの森やFSC認証品について情報発信を行うことはもちろん、国土の約3分の2が森林である日本において、もっと森や自然を身近に感じてもらうために、森の楽しみ方や森について学んだり感じたりできる情報をお届けしています。



FSC応援プロジェクト https://shitte-erabo.net/ホームページは今年リニューアルされ、さらに親しみやすく分かりやすいサイトになりました。



FSC応援プロジェクトのFacebookも 随時更新中。 ぜひしいね!」をお願いします!

9

ブログサイトではこんなトピックを取りあげました

FSCの森で手づくり体験



FSCの森で採集した材料でリースづくりをした様子をレポートしました。

身近な植物で発芽実験



まつぼっくりの種で発芽実験な ど、森が身近に感じられる雑学 をご紹介しています。

森で楽しむ淹れたてコーヒー



森の恵みを美味しく楽しむ情報 を発信中です。

FSC認証品採用企業を取材



キリン株式会社様などFSCを積極的に採用する企業の皆さまを取材しています。



エコシステムアカデミー

あらゆるステークホルダーに向けた 三菱製紙グループの環境学習施設

エコシステムアカデミーは、森の恵みを活用する企業としてこ れまで社内で育んできた知識や経験を、次の世代の子どもたちや お客様にお伝えすることを通して環境保全に貢献するため、2010 年に開設されました。「森をめぐる循環」をテーマに体験型学習、環 境セミナー、森の調査・研究を3つの柱として、三菱製紙グループ 全体で取り組みを進めています。当社からも開設初年度から社員 有志が参加し、現在24名がメンバーとして活躍しています。



● 子どもたちはもちろん ▲ 大人も学べるプログラムをご用意

エコシステムアカデミーの事務局は福島県西郷村にあり、同村 内の三菱製紙社有林である白河甲子の森 (FSC FM認証取得)を 環境学習の場として活用しています。三菱製紙グループ内での 社員教育のみならず、地域の子どもたちや得意先の皆さまにも 森の循環やFSCについて考えてもらうため、様々なプログラムを 提供しています。



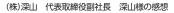


エコシステムアカデミーのスタッフたち。森の知識はもちろん、木材を扱う際のプロフェッショナルです。

エコシステムアカデミー活用事例紹介

今年10月、エコシステムアカデミーで 当社の得意先である株式会社深山様が 社員教育を実施しました

紙の専業卸商として100年以上の歴史を持つ老舗企業であ る同社。学生向けの会社説明会において「紙は環境に良くな いのではないか?」といった質問を受けたことで、紙業界と 世間一般の認識には大きなズレがあることに気付かされ、 教育の重要性を社内で再認識されたそうです。そういった 中で、実際の森を体験しながら学ぶことのできる場として 最適だということで、エコシステムアカデミーでの社員教 育が実現することとなりました。



一般的に社員教育は工場見学となることが多いのです が、今回FSCの森を散策し、パルプを使って紙抄きを行 うなど実際の体験を通して学んでもらうことで、より有 意義なものになりました。また、社員同士の交流の場と してもよいきっかけになったのではと思います。今回の 経験が社員の成長につながることを期待しています。





の森を歩きながらのフィールドワークも行





紙すき体験中の皆さま。近年入社した社員のほか、来年入社予定の内定者も参加しました。



次世代に繋ぐFSC®

長期的ビジョンで学生や子どもたちへの働きかけを続けています

「子どもたちの未来を創る」というスローガンのもと、環境をテーマに活動する学生たちと協同で様々な活動に取り組んでいます。

■ 工学院大学 エコシステムアカデミー訪問

工学院大学エコ推進委員会の皆さまとは、エコプロをきっかけに2015年より交流を開始。工学院大学が主催する「わくわくサイエンス祭 科学教室」において、2016年より同委員会の皆さまが行う紙抄きの演示をサポートするなど、関係を築いてきました。今年はさらに、科学教室での演示協力だけでなく、9月に福島県西郷村にあるエコシステムアカデミーを委員会有志の皆さまと訪問し、本物の森を感じながら、環境保全やFSCについて一緒に考える貴重な機会をつくることができました。今回の経験を通して、学生の皆さまの環境保全への興味や理解をより深め、今後の委員会活動や学生生活に役立てていただくだけでなく、当社との多角的な連携にも繋がっていけばと考えています。

















● 千葉大学 環境教室 新たなスキーム構築に向けて

千葉大学とは、2015年より環境保全活動に関する情報・意見交換を目的としたディスカッションを皮切りに様々な連携をスタートさせました。今年は同大学の環境ISO学生委員会の皆さまが地域の子どもたちに向けて開催する環境教室で使用するノートの作成に協力。FSCマーク等の環境ラベルを掲載したノートは教材としても活用でき、環境保全に向けた取り組みをさらに1歩前へ進めることができました。その他にも、学内で発生した古紙を有効活用した新たなスキームを構築しようと、委員会の皆さまと当社で意見交換を実施し、連携を進めています。これからも、大学生の持つ柔軟な発想と当社の経験の融合により、環境保全に繋がる新しい商品やサービスが生まれると信じています。

Safety & Health事業

東日本大震災をきっかけに生まれた新事業は 防災と健康をテーマに展開を続けています

三菱製紙グループー丸となり、東日本大震災からの復旧復興を行い今に至ります。 その教訓を活かすべく、当社は2013年に「Safety&Health事業」を立ち上げ、 ステークホルダーの自助・共助に役立てる製品を模索し続けています。

水に浮くリュックサック フロートパック「ウィーテルくん」の販売を開始

当社の「Safety&Health事業」の活動が4年目を迎える今年、新たな防災グッズとしてフロートパック (浮力補助機能付き持ち出し袋)「ウィーテルくん」に出会いました。

「ウィーテルくん」は東日本大震災で亡くなった方の死因の90%以上が溺死(2011年版 防災白書より)であったことから開発された製品で、万が一津波に巻き込まれた時に浮く事ができ、装着者の意識がない状態でも上を向いて呼吸を確保することができます。

有事に皆さまのお役に立てる よう、現在沿岸部市町村や学校 関係を中心に提案を行っており ます。

「ウィーテルくん」は、災害時、有効に活用でき安全と認められる防災グッズとして、今年9月、防災製品等推奨品マークを取得。さらに10月には防災製品大賞©2017 特別賞(産経新聞社賞)を受賞しました。





ハンズフリー担架「イージーレスキュー」 2016年7月より当社が国内販売総代理店に

ハンズフリー設計で事故現場等への迅速なアプローチが可能な担架「イージーレスキュー」。これまで一般企業や学校関係を中心に広く採用いただいております。ただ販売するだけではなく、社内でも体験講習会の実施や防災訓練で同製品を使用するフローを取り入れるなど、ご購入いただいた方々の力になれるよう、当社従業員の取り扱いスキルを高めています。





CSR活動報告

地域とともに



東京都中央区では、「知ろう!やろう!私たちにできる エコ」をテーマに、環境問題について子どもから大人ま で楽しみながら学べる体験型環境イベント「エコまつり」 を毎年開催しています。

エコまつりは今年で14回目となり、あかつき公園及び中央区保健所を会場として、区内の環境団体や区内に事業所のある企業など、20近くの出展者がそれぞれの環境活動の紹介をしています。

当社は昨年に引き続き出展し、FSC®についてのパネル展示とクイズを実施しました。午前中だけで200名以上の方がクイズに参加され、子どもから大人まで幅広い世代の方に楽しんでいただけたようです。

これからも、FSCの認知度向上に貢献するとともに 地域のつながりもよりいっそう深めていきたいと考え ています。







クイズの参加者には間伐材の

活動報告

音楽部が中央区のケアハウスで コンサートを開催

当社の音楽部は、2015年より高齢者施設でのコンサートを 再開し、年2回の本番に向けて活動しています。今年は1月と6月 に東京都中央区のケアハウスにて懐メロを中心とした歌謡コ

ンサートを開き、施設の皆さまに楽しんでいただきました。当社では、CSR活動として今後もこの活動を応援してまいります。



活動報告

地域の清掃活動に参加

·町内会清掃活動

本店のある東京都中央区京橋二丁目東町会では、隔月毎に定期町 内清掃を行っています。当社も毎回参加し、町内の環境美化に取り 組んでいます。

・まちかどクリーンデー

東京都中央区では「住みたい、働きたい、訪れたい」清潔で美しいまちをめざして、身近な場所の清掃を呼び掛けています。当社は年6回、会社周辺の道路を中心に従業員が清掃を行っています。



東京の道を花で彩る 「NPOはな街道」の活動を支援

NPO法人はな街道は日本国道路元標がある名橋「日本橋」を拠点とする中央通りを四季折々の花で飾り、国際都市東京のメインストリートにふさわしい「景観の保全」と「さらなる賑わいの創出」をめざして活動しています。当社は「花奉行」としての支援とともに清掃活動や花植えのイベントに参加しています。





FSC® C011851

CSR活動報告

従業員とともに



イージーレスキューを使った防災訓練

2016年度の総合防災訓練は、東京本店・大阪支店で同時期に実施し、双方とも9割以上の従業員が参加しました。

防災訓練では、大地震発生を想定し、自衛消防組織の指揮統制の確認や、従業員の避難訓練を行いました。負傷者の搬出を想定した訓練では当社で販売しているイージーレスキュー(ハンズフリー担架)を使用するフローを取り入れています。

また、2016年度は新たに安否確認システムを取り入れ、東京本店では地下一階から梯子を使った避難訓練も行いました。訓練実施後は、従業員に対してアンケート調査を行い、来年度に向けた内容の見直しに役立てています。



イージーレスキューを使った訓練の様子。



人間の尊重

働きやすく元気の出る 職場環境づくりをめざして

企業の事業活動、従業員の言動が人権に配慮した ものでありステークホルダーの人権を侵害しないこと、また安全な環境の中で従業員の多様性、人格、個性が尊重され能力を発揮しいきいきと働くことができることは企業経営の重要な課題です。

この認識のもと、三菱製紙販売行動憲章に人間の尊重、三菱製紙販売コンプライアンス行動基準に人権尊重、差別禁止、ハラスメント防止の項目を設け、すべての従業員がこれを理解し行動することによって、働きやすく元気の出る職場環境をつくっています。

人権啓発の方針と体制を決め、全事業所、全従業員 を対象に定期的に人権啓発研修を実施しています。



中央区

ワーク・ライフ・バランス

推進企業に認定

東京都中央区では、仕事と家庭の両立や男女がともに働きやすい職場の実現に向けてワーク・ライフ・バランスの取り組みを推進している企業等を「中央区ワーク・ライフ・バランス推進企業」として認定しており、今年当社はその認定を受けました。

当社では、育児短時間勤務の利用時間延長や時間単位年休制度の導入など、多様な働き方に対応できるよう従業員就業規則の見直しを定期的に行っています。また、新たな制度導入の際は説明会を実施し、従業員への周知も徹底しています。

これからも、事業を通して持続可能な社会を実現し、社会に貢献するための基盤として、働きやすい環境の整備を進めてまいります。





育児·介護休業制度

当社では、育児・介護休業制度や時間 単位年休制度を設け、さまざまなかたち で従業員の仕事と家庭の両立を支援し ています。今後もすべての従業員が子育 てや介護をしながら働き続けることがで きる職場環境をめざした整備を進め、ダ イバーシティの尊重を推進していきます。

	2014年	2015年	2016年
育児休業取得実績	4名	2名	4名
介護休業取得実績	0名	0名	0名



瞳がい者雇用

法定雇用率は未達となりましたが、2016年度より新たに2名を採用しました。それに伴い、当社では「障がい者職業生活相談員」を選任し、障がい者の業務のサポート・指導だけでなく、普段の生活の相談にも対応し、長期就労ができる環境づくりに努めています。

		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
	当社雇用率	2.2%	1.3%	1.0%	1.0%	0.74%	1.54%
ĺ	法定雇用率	1.8%	1.8%	2.0%	2.0%	2.0%	2.0%



再雇用

2012年に改正された「高年齢者雇用安定法」の施行に伴い、当社では再雇用制度を導入しています。この制度により定年をむかえた従業員の雇用を確保しています。多様な人材の活躍を支援するとともに、豊富なノウハウを次世代へ引き継ぎます。

	2014年	2015年	2016年
再雇用実績	12名	13名	14名



争耒州一見					
	住 所	電話番号	FAX番号		
本店	〒104-8372 東京都中央区京橋二丁目6番4号	03-3566-2300	03-3566-2339		
大阪支店	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町一丁目3番9号	06-6271-2271	06-6261-9290		
名古屋支店	〒450-0002 名古屋市中村区名駅三丁目16番22号 名古屋ダイヤビル	052-563-7561	052-563-6857		
東北支店	〒983-0045 仙台市宮城野区宮城野一丁目11番1号 ダイヤミックビル	022-295-7710	022-295-7730		
九州支店	〒810-0001 福岡市中央区天神一丁目15番6号 綾杉ビル	092-771-1531	092-714-7197		
八戸事業所	〒039-1161 八戸市大字河原木字北沼	0178-29-2551	0178-29-2751		
札幌出張所	〒060-0063 札幌市中央区南三条西十丁目1001番5 福山南三条ビル	011-271-3555	011-271-3557		

お問い合わせ先 総務人事部総務チーム TEL:03-3566-2300 FAX:03-3566-2339

CSRレポートWeb版 http://www.mitsubishi-kamihan.co.jp/



右記QRコードからもアクセスできます。▶



